

私と個性化教育の 20 年、そして、これから

九州個性化教育学会 会長 川原 俊彦
(佐賀県嬉野市立塩田小学校 校長)

私と個性化教育との関わりは、当時の勤務校学校長、光武充雄先生(九州個性化教育学会前会長)から本学会へのお誘いをいただいたことに始まる。2008年(平成20年)には、佐賀県武雄市において本学会の第1回全国大会も行われ、私も携わらせていただいた。

それから20年程が過ぎた。その間、私は13年間を佐賀県教育センターで勤務し、多くの年数を学校の伴走者という立場で学校教育に関わってきた。

学習指導要領の中身について学校から問われることもしばしばで、総則をはじめ各教科の解説等を読み込んでいた。改訂の度ごとに「個性」「個別」といった文言を多く目にするようになったと記憶している。私自身が本学会の会員であるが故に余計にそのように思うのかも知れないが、「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』とあるように、個性化教育の発展と普及を目指す本学会を取り巻く状況としては、私が入会した頃と比べると隔世の念を感じる。

ただし、ふと考えることがある。それは、「主

体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』のその先にあるものとは何かということである。そのような中で、二度の学習指導要領の改訂に関わり、現文化庁次長の合田哲雄氏が寄稿している「日本教育」令和6年7月号『デジタル時代の「共生の作法』』を読んだ。合田氏はこう述べている。

「今大人がすべきなのは、自らの世代固有の社会像に沿って子どもたちを標準化するのではなく、今の時代を生きるなかでの思いや憤り、関心を背景にした子どもたちの問題意識を引き出すこと、自分自身の問い合わせについて深く考え方対話する上で教科の学びが実に役に立つとの実感を伝えることだ」

子どもたちを標準化しようとしているのだろうか。子どもたちの問題意識を引き出すことや教科の学びが役に立つとの実感を伝えることに躊躇していないだろうか。「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』のその先にあるもの、それは私が個性化教育に関わる中で、自分自身にひたすら問い合わせ続けていることそのものではないかと思う。

研究主題

自ら学び、考え、共に
高め合う児童の育成

10月29日（火）、指導者に東京学芸大学・佐野亮子先生
埼玉学園大学・伊藤慎悟先生をお招きし、上尾市教育委員会
委嘱特別支援教育研究発表会を開催した。



尾山台小は、全学年単学級（通常6、知的1、自閉症・情緒1）の小規模校である。通常級147名の内35名程度が特別な支援を必要とし、どの学級も特別支援教育の視点が欠かせない。研究に取り組むに当たり、全校で学習環境の整備をした。教室掲示物の厳選、大きな文字盤の学習用タイマー、個別に学べるパーテーション、空き教室を多目的室として整備して教室の隣に配置する等した。PBS（ポジティブ行動支援）を強化し、少人数指導やTT指導も可能な限り設定した。

授業では、多様な児童の個別最適な学びを目指し「自由進度学習」を取り入れた。他者との関わりに課題をもつ児童が多いことから、協働的な学びの充実のため、経験単元による「学級総合・生活科」にも着手した。

研究発表会では「自由進度学習」と「学級総合」を公開。「自由進度学習」は、1年生「国語・算数」、6年生「理科・社会」、支援級「音楽・図工」を行った。様々な特性があっても自分で課題に向かえるよう魅力的な掲示物やヒントカード、複数コースを準備し、ICT端末やAIロボットによる聴覚や視覚による支援も組み入れた。

学習場所を教室・多目的室・廊下など3か所以上準備し、パーテーションも配置することで、各自のペースで集中できるよう配慮した授業を展開した。6年生では、支援級児童が交流学習として取り組むインクルーシブな授業を行った。一方「学級総合」では、学校に「池を作る」ために、熱心に意見を交わし合い、自分たちの最適解を見出そうとする授業であった。参会者からは「どの授業も児童が集中して楽しそうに学ぶ姿が印象的だった」、「学習環境を整備することで、児童が意欲的に学ぶことが分かった」などの感想をいただいた。

児童意識調査からは、学習意欲の高まりが見られ、自分のペースで学習したり、仲間と協力して学んだりする楽しさを感じている児童が多いことが分かった。本研究を通して、教師が何をどのように教えるかという視点から、児童が何をどのように学ぶのかの視点へ転換する大切さを改めて感じた。学習の主体は児童である。様々な特性をもつ全ての児童が、安心して楽しく学べる場を今後も創っていきたい。

（文責・尾山台小校長・熊坂）

研究主題

深く学ぶ算数科学習

子どもが数学的な見方・考え方を
働かせる単元構成を通して



11月15日(金)、今回の研究発表会は、
福岡地区(福岡市を含まない福岡市近郊9市7町)
算数教育研究会の研究大会として開催されました。

本校は研究会に会場を提供する形ではありましたが、
せっかくいただいた学びの機会、本校が進めている自由進度学習のさらなる充実とともに、日頃
の一斉学習を見直す視点づくりに挑戦したところです。

算数教育研究会、そして本校と共通の視点として焦点化したのが「単元づくり」です。「子ど
もの学びの文脈」を大切にしていくために、1単位時間のみを考えた授業づくりではなく、単元
を通した「子どもの学び」をさらに掘り下げていくことを目指しました。

具体的には、1単位時間どうしの学習が細切れにならないよう、「統合・発展」を中心とした
「数学的な考え方」や、単元を通しての目の付け所「数学的な見方」をしっかりと分析し、単元
づくりを行っていきました。

単元内自由進度学習では、特に「ワークシート」を単なる知識・技能の習得を目指すだけのもの
ではなく、算数教育研究会のお力を借りながら、単元内での「数学的な見方・考え方のつなが
り」を意識した見直しを進めていきました。

算数研究会の会員による飛び込みの一斉型授業では、「単元のゴールを子どもが意識できるよ
うにする」「単元の計画を子どもとつくり、子どもと確認する」「自己選択・自己決定の場を可
能な限り設定する」ことを大きな視点に授業づくりを行いました。

当日の指導助言、講演講師として、奈須正裕先生、伏木久始先生、佐野亮子先生にお越しいた
だき、「子ども主体の学習とは」「環境が子ども達に働きかける学習とは」「生活や他の学習に
転移する学力とは」といった視点で、本校及び研究会の取組について価値付けをいただくことが
できました。講師の先生方のお力を借りりし、これから算数科教育の向かう方向について福岡
地区全体に発信する、実りある研究発表会となりました。

(文責・桜原小校長・尾上)



日本個性化教育学会会員の著書を紹介します。全国の先生方の教育実践や研究をサポートする良書です。



多様な教育機会をつむぐ	多様な教育機会から問う	学校DXと「個に応じた学習」の展開
<p>澤田 稔 金子 良事 著者</p> <p>「多様な教育機会をつむぐ」 ジレンマとともに異なる可能性</p> <p>「緩さ」に照準する教育へ</p> 	<p>澤田 稔 金子 良事 著者</p> <p>「多様な教育機会から問う」 ジレンマを解きほぐすために</p> <p>反復される対立のなかで</p> 	<p>澤田 稔 金子 良事 著者</p> <p>「学校DXと個に応じた学習の展開」 上級学年指導者の心地よい教科融入れた学習モデルへトランスフォーム</p> <p>教育DX時代に応じる新しい学習モデルを提示する画期的な書!</p> 
<p>森 直人 澤田 稔 金子 良事 編著 明石書店 3000 円</p>	<p>森 直人 澤田 稔 金子 良事 編著 明石書店 3000 円</p>	<p>加藤幸次 著 黎明書房 2750 円</p>

◇お知らせ ・・『オープン教育・個性化教育』文庫が開設されました!



開設された文庫の前で加藤先生と
前 緒川小学校長 鬼頭先生

開設場所は愛知県東浦町にある「東浦町中央図書館」。JR 武豊線「緒川」駅から徒歩 10 分。文庫には現在のところ約 300 冊の本と雑誌・研究紀要などがある。誰でも利用できる。また、緒川小学校に『オープン教育・個性化教育』「特設」文庫を設置予定。この「特設」文庫には、『オープン教育・個性化教育』を実践してきた全国の学校の紀要研究物、イギリスやアメリカで出版された図書も収められる。現在約 600 冊の本と雑誌・研究紀要など揃いつつある。来年には文庫の正式な開設記念の研究会を予定している。

◇会費について ・・・ 日本個性化教育学会は会員の会費のみで運営されています。会費未納の方は納入にお願いします。

事務局への問い合わせ 執務部長 佐久間茂和

〒362-0064 埼玉県上尾市小藪谷 77-1 3-28-502

TEL 080-5429-1681

E-mail sakuma.shigekazu@jcom.zaq.ne.jp

日本個性化教育学会 HP <https://koseika.com>

日本個性化教育学会 第 45 号

2024 年 12 月 21 日発行

編集責任者 事務局長 奈須正裕

編集 中澤米子

